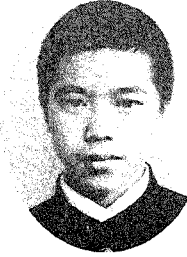


## 中学生 税の弁論大会

昨年11月、税を知る週間の行事として、大月税務署、東部県税事務所、都留市などの主催による税の弁論大会が市役所大会議室で行われ、その結果東部県税事務所長賞に選ばれた小川健一さんの内容を紹介します。



東桂中学校3年  
小川 健一

大むかしの中国。儒教の祖、孔子がいなか道を歩いていると、墓の前でなくくずれている女に出会った。そのあたりに恐ろしいトラがいて、以前義父が喰い殺されたが、続いて夫が、そしてこんどはかわい子息子が殺されたのだという。そんな恐ろしいところなら早くよそに引越せばよいのに、という女は首をふつた。「いいえ、ここならあのむごたらしい税金を取り立てられる心配がないのです。孔子は弟子たちをふり返って、「ご覧、人々にとってひどい政治はトラよりももっと恐ろしいものなのだよ」残念なことにはこの話は現代にも生きていて税に對する私たちのうらみつらみの数々は、未だに消えることがありません。という内容の本を前に読んだことがあります。税金は、せつかく父や母

が苦労してかせいだお金を国や地方公共団体がもっていつてしまうのでありますから、一般的に良いイメージではないようです。僕の家でも、よく父や母が「税金は高くていやだね」とこぼしている姿をみかけます。しかし、税金とはなんなのでしょう。正直のところ僕にはわからないことばかりですが、けつして「とられる」という悪い面ばかりでなく、「税金の恩恵」というよい面もたくさんあるのではないかと思ひ、そのことを僕なりに、この小冊子などをつかひながら考えてみました。我々中学生は、税金についての経験が少なく、認識も浅いといわれていますが、僕はそうは思いません。税金は、日常生活の中で、中学生でも、かかわることが多いからです。たとえば、先程の両親の会話

の件や、父が、毎ばんのようののんでいる、ビール、ウイスキーなどの代金のかかりが税金であったり、僕たちがよくいく映画の観賞料の約一割は税金だそう。いわゆる税金とは「国家、公共団体がその一般の経費を支弁する目的で、財政権により一般市民より強制に徴する財」だそう。私たちがおさめている税金は、国や公共団体の活動にどのくらい充てられているのでしょうか。税金はどのように使われているのでしょうか。資料によると、昭和五十八年度の国の一般会計歳入予算は五十兆三、七九六億円で、その内六十四、一％(三十二兆三、一五〇億)が税金からの収入になっています。また、都留市の一般会計予算をみると、二二、二％が市税となっており、税が国や公共団体に

の仲間入りです。これからは、今より一層自覚し、責任感を強くもち、社会にも広く関心の目を向けていかなければならないでしょう。この日を期に、もう一度自分というものを見つめなおしよりよい人生を築いていきたいと思ひます。



▲華やかな雰囲気にも包まれ

を迎えることは、感慨深くその責任と誇りを痛感いたしました。今日まで、私達を暖かく見守り育て下さった大勢の方々の慈愛と祝福を忘れるものではないです。最後に、私達のためにこのような盛大な式を催してくださいましたことに厚くお礼を

申し上げますと共に、今後諸先輩方のご指導の下、多くのことを学び、輝かしい二十一世紀に向け、私達が社会の要請に適切に 대응することができ、また、地域社会の発展、ひいては国の発展に大いに貢献することができるよう、なお一層努力することをここに誓います。

とつてはなくてはならないものだがということがわかりました。税金がどのようにつかわれているかは、国の歳出をたどればわかると思ひます。国の歳出の十八％は社会保障関係費であり、病氣・災害・失業・老齡などによって、僕たちの生活がおびやかされないようにつかわれています。その他は、道路・住宅・ダムなどを整備するための公共事業関係費。教育の普及や充実、科学技術の振興のための文教科学振興費など、どれも、私たちが健康に安全に文化的な生活を営むために必要な経費に支出されています。また、市においては三分の一近くが教育費。僕たちの学校生活のためにこんなにつかわれています。このように資料から、税のつかわれかたがわかってくると、自分たちがいかに「税金の恩